

■山口市長より年頭のご挨拶をいただきました。

『ともに築く 元気山口』

山口市長 伊藤 和貴



山口商工会議所の皆様、新年明けましておめでとうございます。

令和7年の新春を迎え、謹んで新年のお喜びを申し上げます。

さて、去年は、長い歴史と多くの先人たちの営みや努力によって培われた本市の魅力が海外から高く評価され、米ニューヨーク・タイムズ紙の「2024年に行くべき52カ所」への選出という、本市にとって明るい話題とともに始まった1年でした。

こうした中、山口商工会議所におかれましては、物価高の影響を受ける市内事業者の皆様への各種支援策の情報発信や、経営改善に向けた相談支援など、きめ細やかな御対応をいただくとともに、市の更なる発展に向けて、本市とともに中小企業の皆様の経営安定化や人材確保への支援、起業創業支援、中心市街地の活性化のほか、「レノファ山口FC応援プロジェクト」を始めとした様々な交流創造の取組を通じた、地域経済活性化に取り組んでいただいておりますことに、心から感謝を申し上げます。

このような中、迎える本年につきましては、新市発足20年を迎える節目の年であり、これまで、市民の皆様のお協力のもと取り組んでまいりました、都市も農山村も、ともに元気なまちづくりを着実に進めてまいります。

まず、元気な都市づくりとして、山口都市核づくりでは、いよいよ本年5月には新本庁舎が、6月には湯田温泉こんこんパークが供用開始予定となります。こうした中で、中心市街地や湯田温泉ゾーンの再生整備など、新市のまちづくりにおける社会基盤整備を着実に仕上げつつ、県都の顔としてふさわしい、にぎわいのある都市空間の形成を図ってまいります。同時に、小郡都市核づくりでは、引き続き、市産業交流拠点施設「KDDI維新ホール」等を活用した事業者支援などを進めるとともに、広域交通結節点であるJR新山口駅の更なる機能発揮に向けて、飲食サービス等の出店支援や、駅周辺の駐車場不足への対応に向けた取組など、新山口駅周辺の更なる発展

を目指す取組を進めてまいります。

次に、元気な農山村づくりといたしまして、地域交流センター等を中心としたエリアへの居住促進に向けた取組や、農林水産業の振興、道の駅仁保の郷の機能強化や道の駅あいおの移転整備などを進めてまいります。

また、ニューヨーク・タイムズ紙への選出に続いて、昨年11月のスイス観光賞の受賞など、国内外から本市への関心や来訪の機運が高まっている中で、本年はプレDC^(※)、そして、来年はいよいよDC本番を迎えますことから、この勝負の2年間を、山口商工会議所や山口観光コンベンション協会を始めとした関係者の皆様とともに盛り上げていきたいと考えております。また同時に、地域経済の活性化に向けて、中小企業の皆様の経営安定化につながる支援、若者の地元雇用の促進や多様な働き方への対応支援などを積極的に進めてまいります。

さらに、安全・安心で快適に暮らせるまちを目指して、交通、防災、子育て・教育、医療・介護など、あらゆる分野におけるまちづくりの取組を推進してまいります。

あわせて、HX(人材育成)・DX(デジタル技術の活用)・GX(地域脱炭素の推進)の3つのXを通じて、企業や地域、市民の皆様への未来に向けたチャレンジを応援しつつ、依然として続く物価高から市民の皆様への暮らしと地域経済を守るためのきめ細やかな支援を図るとともに、地域経済の活性化や地域課題の解決につなげていく取組を、経済界の皆様のお協力のもと、ともに進めてまいりたいと考えております。

こうした考え方のもと、本年を「ともに築く 元気山口」の年と位置付け、「ずっと元気な山口」の実現に向けたまちづくりを進めてまいりますので、引き続き、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年が、皆様にとりまして、幸多い年となりますことを祈念いたしまして、新年の御挨拶といたします。

※ DC(デスティネーションキャンペーン)とは、JRグループや自治体などが協力して実施する大型観光キャンペーン。